政治経済講演會講演集

第八十二輯

昭和十三年五

エコノミスト

最近の獨逸經濟事情

最近四個年間の獨逸

國政研究會

群馬県立図書館
中島文庫

7190

注意事項

○資料は大切に扱いましょう。
○資料は転貸借はお断りします。
○15日間の期限に必ず返して下さい。
○資料を汚損または紛失した時は同一の資料又は相当代価を弁償していただきます。

群馬県立図書館
前橋市日吉町一丁目14-8
電話（0272）㉛3008番

No. 1

最近の独逸経済事情

最近四個年間の独逸（匿名氏著）

Germany: The Last Four Years. (By "Germanicus")

Eyre & Spottiswoode, 1937

倫敦エコノミスト誌最近版 "Economist" (Latest Editions)

紐育タイムズ誌最近版 "New York Times" (Latest Editions)

13, 5, 6

報告内容目次

一、経済統制機構
二、物價統制機構
三、外國貿易政策
四、ナチス政府の経済的業績
五、獨逸の戰争能力
六、獨墺合併により獨逸の得たる経済的（戰争能力上）の利益
附、日支事変に関する海外報導[redacted]

No. 3

一、独逸経済統制機構

（匿名氏著「最近四年間の独逸」

英国出版（一九三七年、第三章

"Germany; The Last Four Years" (By "Germanicus" Eyre & Spottiswoode, 1937. Chap. 3)

〔解題〕「最近四年間の独逸」は一九三七年一月号の「バンカー」誌に掲載されたもの、を単行本として出版したものであり、「エコノミスト」誌主筆レートン卿の序文に依れば、独逸の軍部、財界等で何

等かの仕事を既に為した約十二名の人々の筆になる。此内武者は現在も引続き独逸で新しい地位について居る。又武者は独逸から追放されて居るが、最近正確な情報を得られる立場にある。決して単なる噂や推定に基いたものでないと。

（今日の如き経済統制は事実上行はれず、従か）

[redacted]ナチ・政權獲得前外國爲替管理のために[redacted]千人以下の人員が從事して居つたに過ぎなかつたのであるが、今日[redacted]經濟の監督統制[redacted]に專心に從事する人員は實に五十万人を超えて居る。

かくてその規模の大・從つてその業務經濟

No. 6

[redacted]によるナチ[redacted]的見地（的観点）から見れば、経済統制
はそれ自体既に一つの目的を持って居ると言
へるし、既に此組織の操作なり、[redacted]
縮少なりは不可能である知悉行って居る。
然しながら経済統制機構の組織発展の
永続性はならず、（或は寧ろこの為めに）、
[redacted]統制機構全体に亘る統一、協調は全く欠
除して居るのである。

独逸の実業家はナチ[redacted]の政治的倫理以外、

[redacted]士くしも大綱の意つた機関によつて監督統制されるのである。

(一)、[redacted]「労働戦線」(Labour-Front)

労働條件を統制し、熟練工の他産業又は他地方への移動を制限し、労働契約を統制し又各種の下層機関を通じて凡ゆる労働規約の協議に参加する。

(二)、[redacted]「工業團体」(State Organization of Industry)

以前の[redacted]企業家聯盟に代るものであり、それ職能的團体であるが、唯附加へて専断的権力を有する

國政研究會

(三)為替管理機関

三国の下位機関を有す——[redacted]全額外貨に

地方通貨局並にライヒスバンク。

(四)特別の統制機関。

原料問題が最も切実な特定産業に対する

之等特定産業に従事する製造業者が外貨の

原料を如何なる価格で購入すべきか、輸入

原料に対し外貨の代用原料を混合せしむべ

きか、又製品中の外貨原料を幾ら減ずべきか、そ

の際の補助金額は幾何たるべきかを決定する。

(Clearing Authority)

(五)、商業会議所。
会員組織は強制的であって、計画経済に必要なあらゆる統計資料を蒐集整理する。
(六)、(国経済会議所)経済参謀本部の経済化する官、その(君の)一方は国防経済に関するあらゆる事項に対して法定的の力を有する。
而もこれで全部ではない。これ等六個の主要機関の外に、殆んど独裁的に近い権力を持つ小機関が実に多数に存在するのであって、例へば、工場監督官、国食糧国防の各支部、すべ

(労働時間を制限する)

この広告宣傳運動は認可を受けたる広告局、說[redacted]說得服を統制する流行議等がある。

之等統ての統制機関の取扱範囲は理論上では殆ど全く制限されてゐるが、然し夫々の機関が完全なる力を有し且つ各機関の目的が他の機関の目的と[redacted]全然反対の場合は勿論ず、最る理論上の制限は事実上は全然へ守られて居ない。

例へば國會機関は農産物価の高いことを欲し、消費者組織は低いことを希望する。商業

会議所は其の地方の産業の為に出来る丈け多くの仕事を得んとし、一方全業者より繊維工業なりの為めの統制機関は出来る丈其の将来商業の縮小を促進せん努力する。又当該営業統制機関連繋統制せる当局は国内の経済政策の問題には何等の顧慮を払はず国内の生産を専ら消費者の繊維工業者へ為に、只一(全)外国市場の供給に無中になつて居る。従つて政策の衝突が引続いて起つて居る。又実業家は政治的報復(昭和六年頃)に絶えず省みるか

それ事件を起さぬためには極めて慎重に仕事をして行かねばならないのである。

統制機関がかく多数混乱的に強化する外に、統制政策が多数混乱的に強化する。独立ではあるが、経済統制に関する特別な命令が毎週七百から千、新たに実施される。之等命令の内或物は只一、二の工場にのみ適用され、又或物は特定地方の全産業に適用され、又或物は全国の全産業に適用される。

從つて[redacted]ビジネスは絶えず官僚主義と戦つて居る、でなかれ居る。

[redacted]・實例として統計盤の読みを輸出する[redacted]一万封度の筆毛を輸[redacted]し、之れ對し輸引が示されたが、之れ對し[redacted]約六百八十種の書式を提出せねばならなかつた[redacted]、若して實際の輸引が済んでから、監督官廳の法手続が完了するまでに十八個月を要した。

かゝる官僚的な遣り方は染料トラストやヂーメス電気コンツエルンの様な、巨額の[redacted]超

No. 14

思惑を有する大会社にとつては[redacted]苦痛を感ずることが最も少ないのである。之等の大会社はライヒス、バンクが[redacted]銀行の手許によ影響を受けない様に保護[redacted]て居る[redacted]からである。結局苦しむ者は卸商か中小工業家であつて、しかも苦しさの比率がナチスの考へ方から見て「不安」と看做される現今には、従業の苦しみは一層ひどいものとなるのである。

経済統制の経営観察[redacted]する事は出来ないか、

経済統制機関の連絡要に関する信用供与は
見る半官の調査機関によれば、[redacted]備給・
地代・小作料●一年約二十億又は之に達する。
しかして間接費は遙に大であつて、輸運費卸商
乃至二百名の小製造業者に付ての能率
商部商業会議所の最近の調査によれば、集約
化事の約七割五分は経済統制上の要求に従は
ずるがんずしやられるといふ。為に調査によ
れば、一つの取引に対して提出すべき書式は
大体乃四十種に上るとの事である。

結局獨逸に於ける經濟統制は未だ計畫經濟の域に達して居らず、但大企業者[redacted]の協力を創成するに成功した丈けであつて、今日個人企業者は國家干涉によるあらゆる不利益を蒙むりしかも國家干涉の提供する何等の利益をも蒙むつて居ないといふことが出來る。

二、独逸物価統制機構（一）最近四年間の独逸[redacted]ノ第四章

[redacted]高級食料品の欠乏と、一般食料品価格の暴騰とはドイツ経済に二つの大きな結果を齎し[redacted]た。

(一)食料品の卸売は完全に廃止され、一方小売商は、事実上、政府の雇人となった。

(二)全独逸の営養標準は約二割減少した。此の減少は[redacted]上層階級に於て、最も顕著であって、下層階級[redacted]は左程影響を受けず、一方最下層階級の営養標準は、寧ろ改善された。

食料局卸売の廃止と、小売の[redacted]（麼想と）は、各徳の制限規則、並に、利潤の減少によって、惹[redacted]起[redacted]されたのである。制限規則は下層階級に、手頃な食料供給を、確保すると云ふ考へで、出来る限り、小麦値段の、騰貴を防がんが為に採用されたのである。わずか十箇の、維卿でさへも、農家から買ひ集められる瞬間から、消費者に、売り渡される瞬間迄、厳密な統制を受けるのである。

小麦の利潤は、大都市に於て、大体ヒツトラー政権獲得以前に比

(四)

へ入て、四割から五割、引き下げられたと推定する事が出来る。最高小売價額の公定と、生産者なり、政府管理の卸商なりからの、最低仕入價額の公定、とに依って、小売商は甚の個人的能力に依って、利潤を擧げる事は出来なくなって居る。

しかしながら[redacted]等の手段は、次の二つの理由に依って、必[redacted]ずしも成果を擧げてるとは云へない。

(一)餘りに多くの抜け穴がある事、若くの高

大部分取られ

No. 20

(二)

品[redacted]輸入品には、最高価額を公定する
事は出来なかった。そして仕入価額に制限が
無い場合、[redacted]で品物を、売る事は一般
の慣習となった。随って無限の利潤が得ら
れる訳だ。小売の利潤が[redacted]削減されたが、小
売商は、確実な商品の廻転が無い限り存
[redacted]在する事が出来なくなった。
従って政府は数ケ月以前露西亜流の封鎖
独占商店の制度を採用した。此制度はまだ
一般[redacted]に普及してをらず、地方の[illegible]、高[illegible]

大部分に限られ

 [redacted]

小数種の品の——主としてバター・牛肉、人造バター等に限られて居る。然しその範囲は急激に拡大されつつあり、一般に将来の小売新市と目されて居る。この新市の下に於て小売商の利益は資本の償却とは全く関係なく、回転率の多少により定められることとなる。

運輸等の手段に依らず、食料品の小売価格は以前より遥かに高い。農産物の卸価の暴騰——輸入食料品殊に穀物、国内生産の食料品殊に野菜の卸価暴騰の中、前者に於て二割五分、

従者は約一割七分は農家からの強制的買集、め並に小売物価の認識から混合され鉄鋼、りが一般消費大衆の負担となってゐるを推定される。〔総合的に食料品三割五分高、日用生活の必需的二割三分高〕ナチス政府は最初から労働収入者の生計費の昂騰を阻止する断乎たる決意を有して居た。従って食料品価格騰貴の大部分は高級品によって負担されねばならなかった。例へば菓物や速成野菜は価格は実に[redacted]二倍、三倍となった。上層階級の食料と看做される鵞卵、ハク

し、羊肉等の価格は五割から十割騰貴した。蔬菜の肉は約五割騰貴。油脂、バタ、砂糖、乳酪類の価格は出来る限り安定に保たれた。

三、独逸外国貿易政策（最近四年間の独逸）（第五章）

（一）、輸出入の努力。

ナチス政権獲得直後始められたレフレーションは国内通貨の価値を貶し、又卸売の段階に於ける国内の工業家に大なる利潤を与へた。独逸工業の大部分はかゝる環境にあつて輸出[redacted]や海外新市場を獲得する輸出貿易を第二義的の[redacted]。重要性しか持たないと[redacted]考へて居た。そして此の考へは世界価格が下落するのに反して[redacted]独逸国内物価が騰貴し始めた事実によつて更に強くなつた。[redacted]従つて輸出業者は最低の利潤

或は極度しなければ海外市場で競争出来なくなった。為に輸出が減少するにつれ、為替は況が激務になり、又その為に輸出は悪影響を與へるという悪循環が始まったのである。同時に特急の輸入用品に顕著な変化が起り、公共事業と軍備拡充とによる重工業の復興は工業原料に対する需要を大量ならしめ、此需要を充たさんが為めに、食料原料製品の輸入は厳しく制限され、原料に優先権が與へられることになった。

シャハト統制による輸入業者は差づく就、而して一九三四年の輸入四十四億四千万マルクは次の三五年四十一億五千九百万マルクへ減じた。同時に輸出増進の為大努力が払はれ、奨励金は輸入は、輸出奨励金に原料輸入[redacted]の為の割当許可は除く特定物資へ、又各種の輸出を為業者に与へられた奨励金は官庁の注文の分配に優越権を与へた。[redacted]
次の手段は独逸の外国債権者の負担に於て輸出に補助金を与へる新方式を採用した。即ち

独逸が海外で募集せる外債を買戻し、輸出為替相場で支払ひ低い市場価格とノミナルなライヒスマルクの価値との差額は之を補助金として輸出業者に与へるのである。封鎖勘定が設けられ、[redacted]金融引延ばしは常に取引料を徴収し、そして此取引料は同様の目的に使用され、又同様な契約が一九三三年六月以降長期債務の新規の為に発行されたスクリップ証券の買上げに採用された、然し一九三四年の半、スクリップの発行が停止され、他の財源は漸次枯渇されて、

 [redacted]

遂に一九三四年の末、全然新しく又色々な新たな補助方法が実施された。即ち各産業の industrial surplus に二分乃至五分の[redacted]強制徴収を課し、（此金額一九三五年に八億マルク、三六年に十億マルクに達し）[redacted]かく徴収せる資金を[redacted]不利な工場に与へられ、更に独逸輸出業者に補助しれるのである。此の輸出補助金により独逸の輸出[redacted]は全体として、二分乃至三分の価格引下げが出来ることとなり、独逸の輸出品は織物

（欄外書入：実施第一年の）

是、化学製品、医療機具等の輸出補助金が全然不要のものである故、海外経済界はその輸出貿易に於て並行から云わば補助を受け得ること[redacted]出来ることゝなつた。封鎖マルクを創設し、独逸輸出の一部（のため）拂に役立てられることゝなつたが、然し最近之による輸出の促進は第二義的な意義しか持つて居ない。

「アスキーマルク制」—特別な補償マルク—は独逸の対中南米輸出に顕著な成功を[redacted]

独乙

賣らし、[redacted]ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ニカラガ、コロンビア、グアテマラ、エクワドル等は、このフアスキシマルク組織の下ん、独逸分子の組織を大ん増[redacted]したのである。又[redacted]為替清算協定は独逸の組織を大ん助成せしめた。元来為替清算協定の最初の目的は外国の債権者に支払を保証する為であつたのであるが、一九三四年以後は[redacted]新たに目的[redacted]クレヂツトを得、従つて独逸の輸出を促進する為

No. 31

め用ゐられることが多くなつて来た。然し波蘭とバルカンの六ヶ国との為替清算協定はより独逸は六ヶ国から[illegible]を増加せしめることゝなつた。多くの場合独逸は[redacted]清算勘定に於て(六ヶ諸国から)農産物の輸入を為し(伯林への自由為替で)、その結果六ヶ国に対し独逸は多額の債務[redacted]となり六ヶ国はその(対独)輸出の支払を得る為めには、独逸より輸入を急激に増加せざるを得なかつたの[redacted]である。

國政研究會

一九三五年以降(独逸)の経済が回復した事は否定出来ない。又今年も回復の一(途)を辿ること、思はれる。然し(一九三六年)輸出貿易を回復せしめんが為には国内に於ては大なる財政的負担を重くし、又海外に於ては常に少しも感心出来ない金融慣習並に取引慣習を重ねした。

獨逸外國貿易額（百万マルク）

	輸出	輸入	出超（△入超）
一九三二年	五、七三九	四、六六七	一、〇七二
三三年	四、八七一	四、二〇〇	六七一
三四年	四、一六七	四、四四〇	△二七三
三五年	四、二七〇	四、一五九	一一一
三六年	四、七六八	四、二一八	五五〇

(二)、資料問題の[redacted]予想。

独逸に於ける農産物並に重要資料の不足は益々甚しくなって居る。食料數量が[illegible]、羊毛、棉花、ゴム、銅、錫等の[redacted]消費財産業に於ては甚しく制限されるに至った。即ちこの資料不足を救ふ唯一の救濟策は植民地の恢復であると固く信じ此に運動を起して居るの然し独逸の資料の状況を注意深く觀察すると此資料不足の主張が誤って居ることを知り得る。今日の独逸には資料の絶対的不足はない。

（統計年鑑）

独逸の原料供給総量即ち純輸入高プラス国内生産高は、一九三五年に於て、独逸最終の繁栄の年たる一九二九年よりも寧ろ上多いのである。[redacted]一方、一九三五年、三六年の工業生産指数は一九二九年のそれを稍々凌いのである。しかし独逸が原料の欠乏に即ち直に悩んで居るのは何故であろうか？、

一九二九年には工業生産に於ける消費財生産と生産財生産とは均衡が保たれて居り、原料不足の声が聞えなかったのである。然るに一九三四年、三五年に

No. 36

は軍需工業の大發展によつて印度の原料不足が惹起されたのである。十年前に於ける軍需工業活動の増大がその必然的結果として原料並平和産業から軍需産業に轉化[redacted]しめたのである。[redacted]かゝる轉換は消費財[redacted]生産業に對する現在の原料不足を[illegible]ざるを得なくしたのである。

独逸は今日絶対的な原料不足に苦しんでゐるのであつて、再軍備が消費財生産業に対する絶対的な原料不足を惹起したのである。即ち之れ自業自得であつて、投消費は寧ろ独逸自らが甘んずべきである。若し独逸がその軍事費を減へは平和経済に引下げれたならば、独逸には原料問題は無い譯である。

獨逸の原料供給（千噸）

	一九二九年 純輸入量	一九二九年 國內生產量	一九二九年 供給總量	一九三五年 純輸入量	一九三五年 國內生產量	一九三五年 供給總量
羊毛	一六一	一五	一七六	一四九	一七	一六六
棉花	三五八	｜	三五八	三四九	｜	三四九
麻類	二三一	一二	二四三	二四二	一四	二五六
絹	三	｜	三	一〇	｜	一〇
人絹	一	二六	二七	一	四四	四五
ステープル・ファイバー	｜	｜	｜	八	一六	二四
纖維原料（計）	七五四	五三	八〇七	七五九	九一	八五〇
鑛油	二、四二九	一〇三	二、五三二	三、四七八	四三〇	三、九〇八
鐵鑛	一六、八三七	六、三七三	二三、二一〇	一四、〇四三	六、〇四五	二〇、〇八八
ゴム	四九	｜	四九	七二	｜	七二

	一九二九年			一九三五年（四）		
	純輸入量	國内生産量	供給總量	純輸入量	國内生産量	供給總量
銅	一六三	七四	二三七	一五二	一四二	二九五
鉛	一一四	九八	二一二	四六	一二七	一七三
亜鉛	九六	一〇二	一九八	七九	一二四	二〇三
錫	一二	四	一六	一一	七	一八
アルミ	四	三三	三七	一三	七一	八四

[redacted]

四、ヒトラー政府の経済的業績

（「エコノミスト」誌一九三八年二月十六日号所載）

獨逸經濟發展の指標（ヒットラーの議會演說に依る）

	單位	一九三二年	一九三七年
國民所得	百万ライヒスマルク	四五・二	六八
生計費指數	—	一二〇・六	一二五・一
工業生産	百万ライヒスマルク	三七・八	七五
農業生産	〃	八・七	一二
失業者數	百万人	（一九三三年一月）六・五	（十月）〇・四七
輸入額	百万ライヒスマルク	（一九三三年）四・二	五・五
輸出額	〃	（一九三三年）四・九	五・九
貯蓄銀行預金	〃	一一・四	一六・一
短期利子歩合	百分比	六・二三	四・五
歲入	百万ライヒスマルク	六・六	一四・〇

12. 3. 50.000 B　10 × 20

	單位	一九三二年	一九三七年
石炭生産高	百万噸	一〇四・七	一八四・五
褐炭生産高	〃	一二二・六	一八四・七
鋼鉄生産高	〃	（一九三三年）九・六六	一九・二一
鉄鉱採掘高	〃	一・三	九・六
ボーキサイト採掘高	一噸	一、三六〇	七三、二八〇
ニッケル鉱採掘高	噸	皆無	八七、〇〇〇
原油生産高	千噸	（一九三三年）二三八	四五三
軽油生産高	〃	（〃）三八六	一、四八〇
羊毛生産高	噸	（〃）四、七〇〇	七、五〇〇
亜麻生産高	〃	（〃）三、一〇〇	二四、〇〇〇
人造羊毛生産高	〃	（〃）四、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇

人絹生産高	〃	（〃二八、）〇〇〇	五七、〇〇〇
自動自転車製造高	台	五六、四〇〇	二三四、〇〇〇
客用自動車製造高	〃	四一、一〇〇	二一六、〇〇〇
トラック製造高	〃	七、〇〇〇	五九、六〇〇
自動車 自動自転車 登録数	〃	一、五〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
鉄道収入	十億ライヒスマルク	三、二三四	四、四八〇
道路費	百万〃	四四〇	一、四五〇
無線聴取者数	百万人	四・二	九・一
ラヂオ・セット生産高	千台	一、〇一一	二、一五六
映画観賞者数	百万人	二三五	三七六
外人観光客数	千人	一、一一四	二、四〇〇
出生数	千人	九七〇	一、二七〇

12. 3. 50,000 B　10×20

上記統計により、独逸の素晴しい復興振りを知る事が出来る。ヒトラーは之等の数字を示して、ナチ政治の優越せる経済的特徴を宣傳したのであるが、然し之は全く別の事柄である——見方によれば、之等数字の示す処は、独逸の情勢が今日良いというよりも、五年前に極度に悪かった事を示すものである。

経済発展を測定する唯一の方法は、一九三七年と繁栄最後の年たる一九二九年とを比較する事である。

英獨両國経濟發展比較表（一九二九年基準 =一〇〇とす）

	英國 一九三二年	英國 一九三七年	獨逸 一九三二年	獨逸 一九三七年
工業生産指数	八三・四	一二三・七	五三・三	一一六・九
石炭生産指数（褐炭を含む）	八一・三	九三・九	六七・三	一〇九・二
水力発電量指数	一一八・八	二二二・五	七六・七	一四九・〇
鋼鐵生産指数	五四・七	一一九・二	三五・五	一一八・三
自動車生産指数	九七・四	二一三・六	二七・七	一八九・九
輸入指数（金額）	五八・六	八五・八	三四・七	四一・七
輸出指数（金額）	五〇・一	七一・五	四二・五	四三・八
就業量指数	九一・四	一一二・四	七〇・〇	一〇三・〇
實質賃銀率	一〇九・四	一一〇・九	一〇四・三	九七・九

右統計一九三二年の獨の英独数字の比較によつて、独逸の不況の深刻であつた事が自然に判る。

一九三七年の獨の数字によつて、一九二九年以後の経済的進歩の度合を知り得る。英国が独逸よりり遅れてゐるのは石炭生産の一項目のみである。

五、獨逸の戦争能力

（「エコノミスト」誌一九三八年三月九日号所載）

獨逸今日の経済政策は戦争の経済的準備と称せられて居り、自然 [redacted] 最近獨逸に於て現情と [redacted] 大戦前の状態を比較する分析が屢々繰返されて居るが、茲に [redacted]。我々はこの事に関して色々の點を適当に要約して見ることとする [redacted]。

(一)

一九一四―一八年の独逸

[redacted]欧洲大戦に先立つ数十年間、独逸は世界最大の債權國の一となつて居り、英吉利に亞ぐ第二位を佛蘭西と爭つて居た。大戦勃発前五ケ年間に独逸の入超は七十億金マルク以上に上つたが、この入超額は海運收入並に海外投資資本の利子によつて十二分に相殺された。当時独逸の海外資産は約二百五十億金マルクに上るものと推定され、加ふるに独逸は國内に多額の金準備を持つて居た。一九一四年

六[redacted]月廿三日現在ライヒス・バンクが所有して居た金銀總計は十七億一千万マルクに達し、うち十三億七千万マルクが金だつた。これに對し[redacted]通貨の流通高は十八億マルク、[redacted]尚又約二十億マルクの金が流通してゐた。

独逸が中立国に蓄へてゐた多額の債権は大戦中[redacted]その入超[redacted]を増[redacted]大するがために役に立つた。又かくも超額は一九一五年度四十億マルク、一六年度四十六億マルク、一七年度三十七億マルクに上つた。戦争の全期間中独逸の貿易差額は百六十億金マルク迄[redacted]まで耐え得られるものと推定された。そしてその差額は(一)十億マルクの金輸出(二)外国証券三十億マルクと自国証券十億マルクの売却(三)が貨形態による三十乃至四十億マルクの借入れと自国貨幣を以てす

る六十乃至七十億マルクの内債発行等に
よつて決済された。

No. 52

今日の独逸は債権国ではなくて債務国であ
る。現在の金及び外貨準備はライヒスバン
クが公式に登録して居ない金及び外貨の秘密
準備を最も楽観的に推定してみてもこれ一九一
四年の準備額の一割以上を出でない。これでは
大戦当時の規模の入超だつたら、僅か六ケ月
間位しか賄い得るに過ぎない[redacted]
最近の経験に鑑み中立国が[redacted]独逸の物資
買付のため喜んで独逸にクレヂツトを[redacted]
る[redacted]とも考へられない。従つて[redacted]金

独逸に提供す

~~Dr. F. Eysen~~
~~"The Limits of Self-Sufficiency in the Provision of Mineral Raw Materials from the Standpoint of Nat. Defence". Deutsche Volkswirt. March 12, 1937~~

No. 53

は戦争目的のための最も重要な原料となりさうであるといふ。最近発表された結論の真價を容易に諒解し得る。次に戦時に於て[redacted]

独逸は食料品並に鉄、鋼、石油等の重要不可缺な原料品の外国依存からどの程度迄合理的に脱却し得るであらうか。

12付2

(二)食料危機の問題の、
[redacted]問題は決定的意義を持つて居る。聯
合国が[redacted]大戦において究局の勝利を得たの
は、結局軍料並に人力の優越性によるものだ
つた。しかし長年の間、戦後独逸の国家主義
者後にはナチスは自国の敗北は決して経済的軍因に
基くのではなく、国内不満分子の「中傷」による
のだといふ物語を大いに宣伝して来たもので
ある。独逸軍部はナチスが[redacted]少数党だつた間中、
この物語を黙許してゐた。しかしヒットラ

の政權掌握後、獨逸陸軍の力を顧慮して、軍部はこの物語を危險視し、民衆を心地よい幻想にひたらせておく考方を不利益だと考へ始めた。かくて、昨年九月マルクス中將は一九一八年の獨逸軍の攻擊において飢えた軍隊は占領した糧食貯藏所からどうしてもはなれようとしなかつたといふ話を裏書した。彼は進んで將來かかる要因を見遁ることが危險な結果を強調したのである。[redacted]

[redacted]として独逸国防相直属の経済問題報告員なるトーマス大佐も、大戦は独逸が一九一六－一七年の蕪菁だけの冬を迎へただけに既に終つてゐるのだと宣言してゐる程である。然らばナチス独逸の農業政策は食料品の外国依存を著減せしめ得たであらうか？其記録は断然否である。（次掲統計参照）

[redacted]

獨逸食料品供給高

（一九三五年十二月[redacted]抜萃）景気研究所出版の報告）

（デッケン博士調査）

年次	全消費高（十億カロリー）	國内品供給高（十億カロリー）	對總額比（百分比）
一九〇九―一三年	七〇・四	五六・三	八〇
一九三三年	六五・九	五三・三	八一
一九三四年	六七・九	五四・〇	八〇

製麵原料穀物收穫高（單位千噸）

	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
小麦	四、六七六	四、七九〇	四、五二三	四、四九〇
ライ麦	七、六〇八	七、四七八	七、三八六	六、七六三
計	一二、二八四	一二、二六八	一一、九〇九	一一、二五二

（ライヒスクレデットゲゼルシャフト年報所載）

なかったを示である。（次掲統計参照）

	一九三四年	三五年	三六年	三七年
小麦	四、六七六	四、七九〇	四、五二三	四、四九〇
裸麦	七、六〇八	七、四七八	七、三八六	六、七二三
総計（パン製造原料穀物）	一二、二八四	一二、二六八	一一、九〇九	一一、二一三

本年二月二十日の演説では独逸はその必要とする食料品の八一%を自国領土から供給することが出来る旨ヒットラーは指摘した。

以上の事実から摘出される結論は軍部経済専門家の年々の報告の中にはっきりと述べられて居りそれによれば、一九一四年—一八年の経験に徴し、戦時における國内農業生産高の下落を二割[redacted]見込まねばならず[redacted]。一方戦時に兵士は平時の一般人よりも多くの食料を必要と[redacted]し、かゝる事情を考慮すれば、戦時の消費は約二割だけ増加する。それ故、経済専門家は一国の農業生産力が戦前消費を約四割上廻る場合にお

いてのみ始めてその国が充分に戦争準備を整へたものとみなし得ると主張する。これは明かに今日の独逸についてはあてはまらない。というのは、国民が決して豊富に給養されておるないのに尚二割の食料品を輸入しなければならない有様だからである。

[redacted]大戦中独逸がパン、脂肪及び肉に関する切符制度を施行したのは漸く一九一六年次始めてだ。大戦開始後約二ケ年間の食料品需要は幾分かは戦前準備された多額の蓄積と輸入によつて賄ふことが出来た。今日独逸軍部の経済専門家は既に「飢餓的経済状態のことを語り」参謀本部は戦争の開始と共にパンケ[redacted]切符制度を施行すべきか否かを研究してゐる模様である。

(三)、独逸と露西亜

独逸の食料品状態（及びその他の要因）を考慮すれば、持久戦において独逸が急速な勝利を得るか否かということは特別重大な問題となる。然らば独逸は即戦即決によって勝利を収めるに必要な条件が備へて居るであらうか。若し露西亜が独逸の敵国の中に数へられるとすれば、その場合独逸にとって一九一四年当時よりも即戦即決に不利な重要箇所が見出されることとなる。[redacted]大戦の初期において独逸

は次表が示す様に露西亜よりも工業的には遥かに有力だつた。（次頁統計参照）

65

(三)、独逸と露西亜

獨露主要軍需資材生産高比較（單位百万噸）

	一九一三年		一九三六年	
	独逸	露西亜	独逸	露西亜
石炭	二〇八・〇 ×6	三六・〇	一五三・八	一二〇・九〇
鐵（鉱石）			六・六五	二七・〇六
鐵（銑鐵）	一六・六 ×3	四・九	一五・三〇	一四・三一
鋼×	一七・六	四・九	一九・一七	一六・三三
石油	〇・一	八・六	〇・四四	二六・三四

× 一九三六年は鋼塊

(四)、原料的自給状態

一九一三年において独逸は露西亜に比し約六倍の石炭と三倍半の鉄鋼を生産し、ただ石油のみが劣つてゐたに過ぎなかつた。しかるに今日では次表の示す様に、事態は著しい変化をみせてゐる。

一九一三年現在（單位百万噸）

	独逸	露西亜
石炭	二〇八・〇	三六・〇
銑鉄	一六・六	四・六
銅鉄	一七・六	四・九
石油	〇・一	八・六

一九三六年現在、（單位百万トン）

	独逸	露西亜
石炭	五八、三八	一二〇、九〇
鉄鑛石	六、六五	二七、〇六
銑鉄	一五、三〇	一四、三一
鋼塊	一九、一七	一六、三三
石油	〇、四四	二六、三四

一九一三年以来露西亜の工業生産は素晴しい進歩を遂げた。大戦中独逸はその工業的優位のお蔭で最初先づ大部隊を西部戦線に集結することが出来、後に東部戦線で露西亜が豫め蓄積してゐた軍備を消費しつくし、工業がこれを補充し得ないのに乗じ、比較的寡兵を以て大規模の攻撃を加へることが出来たのである。

今日では、独逸の重工業生産高は絶對數ではは露西亜に比較して最早著しく優位ではあり得ない。独逸は鉄鋼業方面では幾分リードしてゐるが、鉄鋼業を維持するため多量の鉄鉱石を輸入しなければならぬ。一方現在露西亜の鉄鉱石生産高は独逸の四倍に当つてゐる。独逸は尚石炭をより多く産出してゐるが、石油生産高に至つては殆んど取るに足らない。しかるに露西亜は世界第二位の石油生産国である。

戦略的に考へれば以上の事実は非常に重大である。次期戦争において東西両戦線に面した場合、独逸参謀本部は最早一九一四年当時の如く東部戦線を無防禦の儘に放置し得ることをあてにし得ない形勢。かくて露西亜の経済的戦争能力が著しく増加したことは、仏蘭西にとつて何よりの救ひを意味する上に又[redacted]即戦即決[redacted]は独逸にとつて極めて困難である。

一九一四—一六年の独逸[illegible]
一、[illegible]
二、[illegible]
三、[illegible]
四、独逸の[illegible]
五、兵力

これ故、今日独逸の軍事専門家が將來戰における露西亜の役割を深く考へる様になつたのは何等驚くに当らない。露西亜の自動車輸送を研究してゐる一独逸専門家は露西亜軍の自動車化は同國軍を優に歐洲における最も裝備の整つた軍隊の一たらしめたと主張してゐる。

（ハウゲン博士「ソ聯の自動車化の能力」ハンブルグ、一九三七年）

[redacted]

航空方面でもソ聯は強力である右の專門家はソ聯における七十四飛行機製作工場の年生産高は八千機に増加し、飛行機製作工業に使用されてゐる勞働者數は廿二万人に上つてゐる旨指摘してゐる。飛行機製作に關しソ聯は他の凡ての国を凌駕したと[redacted]述べてゐる飛行機製作並に飛行のため原料並に人材は共にソ聯領土内で充分得られる。更に露西亜の最も重要な飛行機製作工場はいかなる敵の空襲も及び得ない處にある。飛行機の質に關して

も、エンヂンを除けば他の列強の水準には達してゐる。しかも陸軍の第二次五ケ年計畫は數多くの飛行機エンヂンの外国型の大量製作を企圖してゐるのである。

と勿論、独逸の軍事専門家は露西亜の他の反面も熟知してゐる。彼等は露西亜の鉄道が高比較的未発達なことを知つてゐる。又彼等は露西亜における最近の裁判と処刑とが赤軍の士気並に指導を弱めたに相違ないと考へてゐる。それにも拘らず、彼等は独逸が東部戦線において一九一五年当時の如くに進撃し得るか否かを疑問として居る。そしてスペイン内乱の経験に徴すれば、飛行機及びタンクが発達したにも拘らず、将来の戦は再び消耗戦と

となり、塹壕戦たらんとする傾向にある様である。従って比較的長期戦が行はれる場合、独逸が弾薬其の他の資料を満足に供給し得るか否かは、いかに重大視しても足りない問題である。

(四)、独逸の原料品

独逸は凡ゆる努力を盡して自給政策を達成せんとしたにも拘らず現在の原料品状態は概して[redacted]一九一四年当時よりも一層困難となつてゐる。一九一三年に独逸帝国は二千八百六十万八千トンの鉄鉱石を産出した。アルサス、ロートレンから現在の独逸[redacted]から産出される額は、僅かに七百三十万九千トンに過ぎない。従って今日独逸は所要鉄鉱石の三分の二乃至四分の三を輸入して居る。これ鉱に

に関して四ケ年計画―特にヘルマン・ゲーリング會社―は根本的変化を齎す豫定である。しかし限られた鉄鉱石埋蔵量が段々増加して行く自給自足経済の要求をどの位の期間満たし得るかという問題は別としても、実際上今日の處ただ準備的な仕事が實行されたに過ぎないのがある。

しかし將来戰における独逸の最大の弱点は石油供給問題であらう。石炭液化によつてこの問題を解決し得る望みがあるだらうか。一九三六年における独逸の全石油費量は約五百万トンと推定された。当時ヒットラーは一九三七年末頃には外油依存から脱し得るだらうと聲明した。しかし今日に至るもその目的は決して達せられてゐない。そしてたとへ独逸が石炭液化によつて平時消費を満たし得たとしても、戰時の需要は全く別個の問題である。

戦時の需要量はどの程度であらうか。勿論正確な推定は出来ないが幾多の價値ある指標が利用し得るであらう。大戦中における併合國の石油消費月額は五十万トンだつた—但しこの中には艦隊並に一般市民の消費分は含まれておらない。最近戦時必要と考へられる量に関する計算が行はれた。シユタインベルゲルは今日の諸條件を考慮して一強国の戦時所要數量を次の如く推定する。(単位百万トン)

國政研究會

陸軍	五、五
空軍	一、七
海軍	二、〇
工業其他	三、四五
總計	一二、六五

同じくフリーデンスベルグ博士は支戰中の一強国の石油消費量は一九一八年に比し約二倍乃至三倍以上に上るべしと見てゐる。そして工業用その他を引つくめて、彼は總額を千五百万乃至二千万トンと押へてゐる。

~~H. Steinberger "Der Treibstoffverbrauch im Kriege," Deutsche Wehr (Supplement to "Deutsche Volkskraft") 193[illegible] no. 1. p. 3~~

No. 82

戰時一列強國の石油消費量

陸軍　五五〇〇万噸

空軍　一七〇〇 〃

海軍　二〇〇〇 〃

工業其他　三四五〇 〃

總需要量　一、二六五万噸

國政研究會

現在一トンの石油を産出するためには約四トン半の石炭が必要である。もし独逸が石油の供給を年一千五百万乃至二千万トン増加せんとすれば独逸は石炭の生産を七千万乃至九千万トンだけ増さなければならないだらう。これは現在の全生産高の約半分に等しい。近い将来にかゝる大増産をなしとげることは非常に困難な仕事といはなければならない。フリーデンスベルグ自身も既に独逸國内において建造され、又は建造中の石炭液化工場は

たゞ平時の石油消費に對してのみ重要であると声明してゐる程だ。戦時における独逸の軍事行動は石油の缺乏によつて露西亜は勿論、英佛においてすらも考へられない様な妨害に直面することとならう。といふのは英佛は征海權を失はぬ限り、三倍の戦時需要すら容易に滿たし得るからである。要するに石油問題は独逸のアキレス腱となりさうである。

(五)、兵力

独逸の既教育兵員数は一九一四年当時に比して如何であらうか[redacted]ヴエルサイエ條約によつて廃止された一般徴兵制度は一九三五年迄正式に復活されなかつたが、その間に実際はある種の軍事教育が秘密裡に大多数の独逸人に施されてゐた。しかし一九〇一年乃至一九一三~~年~~—一四年兵は戦前の兵士に比すべき程の徹底的

普遍的かつ系統的な教育をうけてゐないのも事実である。[redacted]將来戦においては將兵[redacted]は大戦当時よりもつと遙かに複雑した機構の一部分となるだらう。この事の意義はフオン、メツチ中將によつて認められてゐる。即ち彼はスペイン及び支那における戦闘を次の様に要約する。

一般的にいうと、多種かつ多量の兵器を協力せしめ得る訓練のない場合、軍備の技術的進歩は充分効果を発揮し得ないことは明かだ。今日の言葉に発展した軍備を、民兵を組織して居る訓練不足民衆の手に委ねることは全く時の浪費に過ぎない。事実多くの場合充分な教育を施すための最少限度二年間の兵役が必要であるといっても恐らく当然であろう。

タイム

近い将来に戦争が勃発したとすれば、恐らく一九一四年当時に比すべき既教育幹部（戦争期間中教育さるべき厖大な人員を急速に一律化し得る能力を持つ幹部）を養成するためには少くとも四年乃至五年の年月が必要とされる[redacted]ナチ国家は突撃隊を作り上げた時に注意深く幹部候補者を選ばんとしたのである。又ナチ国家はヒットラー親衛隊、即ち警察官を選ぶに当っては一層厳格で[redacted]あろう。しかし軍隊を建設するには凡ゆる有用な人間を訓練

しなければならず、又それをあるがまゝに利用しなければならない。将来戦においては二十歳乃至五十歳の年齢で相当健康な独逸人は凡て軍人となるか軍需工業労働者となるか何れかであらう。独逸国民は全体戦争が意味する犠牲を喜んで引うけるだけの覚悟が出来てゐるだらうか。

大戦中独逸軍の士官だつたカール・ピンチオヴイウスはスペイン戦争の初期に注目すべき一書を出版し、これを独逸国防心理学の創始者、フオン、フオツス大佐に捧げてゐる。[redacted]

[redacted] 本書の著者はいかなる戦争でも平存する宣傳並に経済戦を長期に亘るものと假定し、[redacted] 民衆心理 [redacted] 豫想し [redacted] 砲撃、飢餓 [redacted]

不信任によつて

精神的戦線は崩壊するといひ、

[redacted]続い

こ[redacted]曰く　今日の政治家の戦時の目的は自國
軍隊の心理の一よしした働きにも重きをおくこ
とでなければならぬ。現代戦の恐るべき性質
を考へれば、断平たる犠牲を要求することは
甚しは出来ないだらう。最初のうちは可能だ
としても、後には最早期待さるべくもなから
う。精神的抵抗力の消耗率は国民の血と汗が
非常に節約して消費されるにあらずんば、忽
ち昂まるであらう。国民の気ぶと[redacted]

大量

その要程も得る限度は

に対立

No. 92

戦争遂行上の三大要素であり、これは今日未だ曾てみざる程度の重大性を持つに至つてゐると。

独逸国防軍の指導者が第三帝国の過激手段によつて独逸国民の戦闘精神(特に長期戦の場合)が弱められることを怖れてゐるといふのは本当であらうか。彼等は少くとも独逸の経済的並に軍事的資源に関する正確な数字を持つて居り、一般的徴兵制を採用以来永く一般大衆に接する様になつてゐる。彼等は第三帝国の支配形態に反対するであらうか。軍部の意見が次の如きセ゜ンチオヴイラスの声明にどの程な近好感を持つてゐるかといふことが判れば、

この間の事情は大いに明瞭となるだらう。
極東の戦が[redacted]我々の対[illegible]よりも出しる尖鋭を意味する
全体戦争となる結果、民衆の戦闘精神はわが
戦線における最も脆弱な點となる[redacted]であらう。
[redacted]

五(A)、獨逸に対する墺太利の価値。

「エコノミスト誌」(一九三八年三月二十六日号所載)によれば、ヒットラーはその著「我が闘争」に於て合併(アンシュルツス)要望の理由は物質的並に軍事的以上のものがあると明言しているが、[redacted] 今回の墺太利併合によって、独逸が此の二方面に於て得る処があったことは明かである。

戦略的見地から見れば、独逸はダニューヴ平野の中央に、又伊太利の国境に進出したこととなり、独逸は従来 [redacted]

に比し進んだ完全に

[redacted]今後はウィーンから中央政[redacted]洲を[redacted]支配することとなつた。チエツコの周囲を囲んでしまつた事は戦略的利益の最も[redacted]なり[redacted]のである。

然し最高戦略の（精神的）経済的側面は何うであらうか。本論は前者に於て、軍事的に見たる独逸経済の（長所短所の調査）[redacted]を発表しこれが、独逸には五つの大なる弱点がある。

No. 97

独逸経済の五大弱点、

(一)、独逸の全貿易は余りに海上に亘りて、将来戦の場合（並に対外貿易の）、先般の欧洲大戦の[redacted]際の様な足合に多額の入超を将来続けることが出来ぬ事。

(二)、独逸は食料に於て一九一四年と同様自給自足の域に達して居らぬ事。

(三)、独逸は原料、特に鉄鉱石[redacted]木材はセルロイド並に各種繊維[redacted]製品代用物の主要原料たる木材に欠乏して居る事。

No. 98

(四)、独逸は石油の戦時需要に窮することが出来ない事。
(五)、独逸は依然訓練を経たる兵士に不足してゐる事。

然らば独墺合併により加はる弱点除去されたか？或は又[redacted]防御強化されたかつ、之を阻めんとするのである。

1

(一)、金保有高並に外国為替資金

金と外国為替の方面に移ってみる。墺太利が獨逸に對する最大の[redacted]は墺太利の金準備は僅少なものであるが、獨逸のそれに比し[redacted]約三倍に達してゐる。獨逸國立銀行（ライヒス・バンク）の報告によれば、獨逸の金並びに外国為替の保有高は七千六百二十万ライヒス、マルクである。（必ずや秘密準備はあるに違いない。）が、その額は不明である。墺太利國立銀行の最近報告によれば、その金並に外国為替の保有高は四億二千二百万シリングである。

No. 100

ユノ金額ヲ三リニゲヲ（邑）太洋価七拾。新公室事
デ換算スルノハ正当デナ[redacted]（ので）イ。之ヲ合併以前
ノ当然相場デ換算スルト、珍有就ス华角高ハ
一億九千七百万ライヒスマルクトナル。高換（政の外）
右額ノ各国ニ対スル当然清算（正の）金額勘定ハ約二
億三リンゲ（九千三百万ライヒスマルク）ニ達
シ、此内（従来の）独逸ニ対スル分ハ（48）六千万シリンゲ（
二千八百万ライヒスマルク）デ、統合独逸ハ
此ノ二千八百万マルクノ（旧国の）賣債ヲ[redacted]（解消し、）又
他ノ諸国ニ対スル九千三百万マイナス二千八

二十万印六千五百万マルクの債権を得たこととなるので、之を加算して、独逸固有ライヒスバンク銀行は統計二億九千万マルクの金準備を新に獲得した額である。従来の四億を保持する
為替不動の対外資和勘定は昨年六千二百万乙リングの増加を見たのであるが、然し不利な輸出超過か今後為替管理・資料不足・通貨の退大評価等の十千万経済の特徴に支配されると、なることを考へ合せて、今後の増加は頗期待する方が良いと思ふ。観光客も減るであらう。

此の二億五千万マルクはライヒスバンクの準備に比しては多額のものであるが、絶対的には今から僅か半年内であつて、要約換算的に千五百万磅、毎月平均五億マルクに達する最近の糧食の輸入を永く支持して行ける程[redacted]のものではない。

(二)、食料品の供給

食料の源泉としては此方面は独逸に大して助けにはならない。独逸以上に墺太利は工業国であつて、食料の相当部分を輸入に依つてゐた。穀物に付て見れば、大部分が自給自足の状態で、小麦、ライ麦、燕麦、玉蜀黍等に於て二割から六割程度輸入せねばならぬ状態である。過去三年間の平年的穀物輸入額は人口十倍の独逸の半分に達して居る。従つて [redacted] 独墺合併は独逸の海外依存を [redacted] 又は強めるものである。

食料に関して

No. 104

以て食料品に関する限り一般的結論に対し
一つの重要な例外がある。それは[redacted]関係で
あつて元来理由は牛乳、[redacted]子の輸出国
で[redacted]、しかし元来強たバター・チーズは独
逸が甚しく欠乏して居る。主要畜産品の過去三年間内に於
ける輸入されず年平均輸出量は二十一万一千キ
ニタル[redacted]。独逸の輸入量は百二十
五万キニタールに達してをり、結局独逸の輸
入量の約五分の一は輸入によつて救われる
こと、なり、独逸の食料品自給計画最大の弱

点である食料船舶の不足に悲何等かの救済を
なすことゝなる。[redacted]

（三）鉄鉱石と森林

墺太利は独逸の最も不足して居る（特に其の）鉄鉱石と木材を供給し得る。[redacted]墺太利総面積の三分の一から半分迄は森林であり、[redacted]毎年の（墺太利木材）生長量は九百三十万立方米突[redacted]である。一九三七年に於て約百七十万噸の木材が輸出せられ、其内[redacted]四十九万噸は独逸に輸出せられた。木材の重要性は独墺合併当時には独逸以外の国に対する（墺太利の木材）輸出が禁止されて居た事実によつても知ることが出来る。然し今から墺太利の木材で独逸の木材問題は解決つ

れまい、といふよりは独逸の一九三七年度の木材総額の量は五百万噸[redacted]を越えて居り[redacted]（樺太の北部に於ける木材の）残裁を意識し増加[redacted]必要があるが、然し樺それは既に[redacted]濫伐に陥つて居る種（傾向）である。

樺太の鉄鉱生産高の大部分は古くから独逸の支配[redacted]（下にある）アルパイン・モンタン会社[redacted]に属して居る。同会社の月産生産高は晩年の後期に於て二十万噸迄に増加したが、（全役）月三十万乃至三十五万噸迄に増加され

それはおそれは

ることゝ思はれる。此鉄鉱の大部分は独逸に輸出されてゐたが今や不便な外国市場の何顧もなく独逸が之を利用し得ることゝなつた。[redacted]年生産七百万噸の独逸[redacted]。然し瑞典の鉄鉱は決して独逸の鉄鉱問題を解決しないであらう。蓋し昨年独逸の[redacted]消費総高は二千八百万噸に達してをり。戦時には盛ん増加する若しあり、[redacted]瑞典の鉄鉱全産高は最も業観的な推定を下しても、年四千万噸以上にはなり得ないからである。

尚現在の鉄鋼生産高は年約六十万噸で、年一千八百万噸の拡充に比し極めて少ないが、ズデーテンやオーストリアには鉄鉱郷に重工業地帯と軍需工場があり、之等が拡充に従事すれば千の助けとなるであろう。

Dual Monarchy 時代から

（四）、石油電化資源

蘭印は独逸の石油資源の不足には何の足しにもならない、現在其の石油産額は顕微鏡的で、需要に足らず。石炭液化についても、石炭も少く又液化[redacted]施設も少い。かくて現在我は石炭で不足しチエコ、波蘭、独逸等から輸入して居るが、然し水力は豊富であつて、独逸は年約二千万シリングに値する[redacted]電力を輸出して居り、然し[redacted]水力[redacted]は利用其の能力の比未だ五分の一しか利用されて居ら[redacted]ず。今後大に開発の余地があるのである。

No. 111

又陸本部は之を果たし移行するや知らぬカイトの主
要生産國である[redacted]より實錄より甚だ高き事。

（五）、兵力

墺[redacted]（独）（合併）は独逸に兵力を増加せしめることゝなる。人口に於て約一割増加することゝなる。増大が徴兵制度を加へたならば、まだ後が三年とかゝらないが、此内に十五万人を訓練教育し、又毎年の徴兵人員[redacted]は三万五千乃至四万人がある。

以上が満洲の鉄拿能力に対する現在我の意識する処のものである。結局事変とする意識は大したものではない。全満人が口為的の得当局は合理的なライヒス、ぺこりの[redacted]保存に比して相当に見えるが置かない。又会料子呼周して、選出本部は奈らして見れば満洲の[redacted]弱点を認めることとなる。最も物価に備へ価値の大きい意識は本材である。[redacted]鉄材に於ける現在我の独占[redacted]とつての価値[redacted]では、更に新個に考へて見

を評価するに至つ

る必要がある——即ち環太平洋は独立して存在にして、[redacted]（独逸）の同盟国となるか或はその内の全部乃至大部分を独逸軍隊が占領されるかの二つしか考へられない。従つて、環太平洋の有する経済的資源は戦時に於ては~~独~~合併と否とに拘らず、独逸がこれを利用し得るといふことである。

（合併されずん）

かくて独逸に対する環太平洋の戦略的価値はその経済的資源の埋蔵といふことよりも、寧ろ、[redacted]欧洲地図の上に占める位置——即ち小

要、高度石油区域、ダニューブ平野を支配する入口に当つてゐることにあると言はねばならない。

(B) 墺太利の経済力に関する若干の統計

(イ) 墺太利國立銀行の資産（一九三八年一月）

金保有高	二四三	百万シリング
在外資金	一六八	〃
通貨流通高	八九二	〃

(ロ) 卸賣物價指数（一九二九年基準）

一九三七年　八七・〇

(ハ) 生計費指数―ウィーン（一九二九年基準）

一九三七年　九四・三

(ニ) 工業生産指数（一九二九年基準）

國政研究會
12. 3. 50,000 B　10 × 20

一九三七年　一〇四・二

(ホ) 就業者数

一九二九年平均　一、四四九、〇〇〇

一九三七年一一月　九九二、〇〇〇

(ヘ) 失業者数
（就業希望者数）

一九二九年平均　一九二、〇六二

一九三七年一二月　三六八、六三七

(ト) 就業人口職業別比率（百万比）

農業（林業）　三二・九

工業　三七・四

交通業　一八・二

公務自由業　八・一

國政研究會
12. 3. 50,000 B　10 × 20

家事使用人　三・四

(チ)

農業生産高（一九三六年）

	生産高（單位千キンタール）	國内消費總量に対する國内生産高（百分比）
小麦	三、六七八	六三
ライ麦	四、六〇五	八一
大麦	二、五三一	八五
燕麦	四、〇二九	九四
馬鈴薯	二四、九九四	一〇〇
砂糖	一、九一九	九九

附　日支事変に関する海外報導 [redacted]

[redacted]

「エコノミスト」誌一九三八年（日支両国戦争能力の比較）

[redacted] 三月二十六日号

（東京、二月二十五日）

日支間に於て時折平和交渉の噂があつたが、日支両国の夫々に於ける基本的の考へ方は長期戦の覚悟に立つてゐる。最近近衛首相は議会に於て平和の時期ははるかに遠いと語り、一方蔣介石は米国 [redacted] の独立戦争の歴史を引合に出し支那もまた日本の侵略に対して長年

に互って抗戰し得ると主張してゐる。今こゝに日支両國の强みと弱みの主要要素について簡單なバランスシートをつくつてみる事は意義なしとしない。

日本(側)の最も顯著[redacted]重要な强みは軍事能力の壓倒的優越性にある。これは將兵の訓練、國家統一の傳統、裝備の優越―殊に砲兵並に機械化部隊、經濟發展段階・等に於て支那にはるかに優れてゐるからである。

(更に)日本の經濟組織は今まで無底である、この点

（日本は）
●その近代的且つ鋭敏な経済機構の為め
支那よりも前に何等かの経済的崩壊に陥
ち入るだらうと考へ易いものにとって注目す
べきことである。日本は重大な経済的難局に
遭遇してゐるがその根幹はあたかも大戦中に
於ける独逸の如く何等の疵も受けてゐない。
第三に明白な日本の強みは食料に於ける事
実上の自給自足の状態―国民の大部分が常食
としてゐる米にしても魚にしても野菜にして
も然りだ。

然しながら支那の本年の輸出を見ると、先づ日本は既に顕著な経済的[redacted]逼迫を味つて居る。軍備拡張、採炭其他の材料の思惑買ひ、軍需[redacted]等の[redacted]国に至つて、昭和十年に於ては未曾有の入超を来し、六億四千八百万円に達し、八億三千万円の金が米国と英国に輸出された。この金の現送により、英国滞の八億一百万円を限として、有史以来保有する金の保有高は極めて少額となつた。従つて毎月の輸入額を大体毎月の輸出額に比較

的な額の国内産金額をかへた金額の限度で制限するといふ其の日暮しの政策を採らざるを得なかつた。この輸入制限は本年一月の輸出額は昨年同月に比し一割八分減じたことによつて、[illegible]一層やつかいなものになつてゐる。国内銀行は、本年[illegible]本年は少くとも五十億乃至六十億円の公債を消化せねばならず、消化的インフレは既に進行中で、生計費は日々に激騰してゐる。

要は第三の綱領は [redacted]（西洋流の規準の上にたつての）軍律の纏綫である。要旨 [redacted] 方便 [redacted]、財界軍閥、パネー号事件、レディーバード号事件等の外務関係将兵を公に罰することとか、今日迄の知れないでゐる。[redacted]

日本の最大の危険は、若干の熱狂的ミリタリストのやりすぎにあり [redacted] 支那以上惑るべき、他の列強を戦争に引込むことである。

支那側の強みは

支那の最大の強みは今回の戦争に際して高揚された[redacted]国民[redacted]統一の異常な発達である。まだ一人の有力な軍[redacted]閥も日本側に降服[redacted]して居ない。韓復榘すら日本側の勧誘にも下らず山東省長官の役に止まつて居れといふ日本側の申出を受入れなかつた。人死の多い共産軍との内乱も止んでしまつたし、平常反抗的な西南軍も中央政府と協力してやつて来てゐる。

支那の地域の大なる[redacted]半はそれ自体征服[redacted]す

その為めの大障害である。支那は[redacted]満洲、[redacted]エチオピアとは[redacted]勝手が違ふ。支那側の士気と武器弾薬が続く限り、日本側が幾ら大都市や鉄道要地を占領しても、後から永年に亘つてゲリラ戦を続けて行くことが出来る。

支那経済の分散的状態は多くの方面に於ける障害ではあるが、然し支那の農村が自給自足的状態を続けて行く限り、強みとなるものであつて、海上封鎖、鉄道輸送路の破壊、

工業化された国経済を威じさせないのである。

地面に於いて、支那側の重大な弱点は野戦に於て日本に対抗し得ないことである。又金融面にあること、縁者ひいきであることは元来支那の伝統であって、中々抜け切れないのではない。従って既に政治の醜聞と不能率とを示して居る。軍令の実施に於て又将兵の驕傲に於て　して居る。又日本の占領によって日本の統一が生

れて来たのであるが、引続く敗戦によつて
一[redacted]撃れ崩れるかに見えた。然し又支那の政
治の統一が外資金も、日本と同様一大ハル
逼迫を来たしてゐる。

然るに支那事変、その完全な窮局的勝利を
絶対に保[redacted]障するものを握つてゐないのである。
只試死の行詰つた状態が引続く可能性が強い
[redacted]日本が支那の一部を抑え長[redacted]期間、
支配し[redacted]色ん角方新ん統制しつゝあるが、

完

No.

群馬県立図書館
0707190-5